

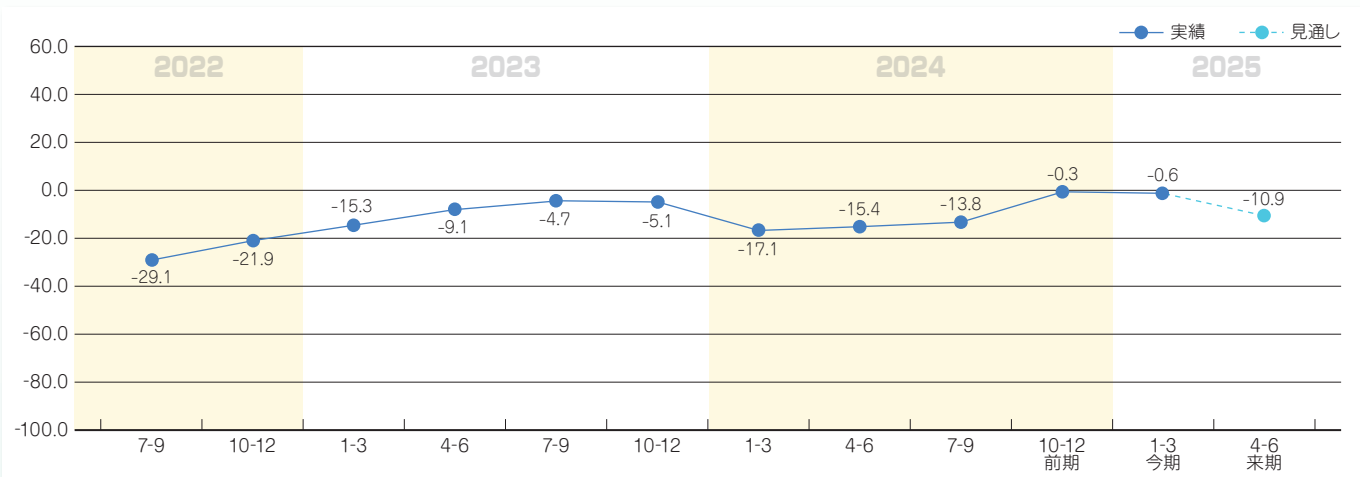
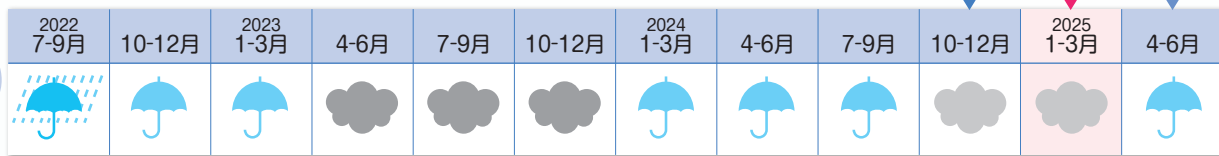


## 全業種

回答数318社

今期の業況D・Iは、前期比0.3ポイント低下の▲0.6と、ほぼ横ばい。製造業、建設・不動産業は改善の一方で、卸売業、小売業、サービス業は悪化した。来期の予想業況D・Iは、10.3ポイント低下の▲10.9。マイナス幅に差はあるが、すべての業種で悪化の見通し。

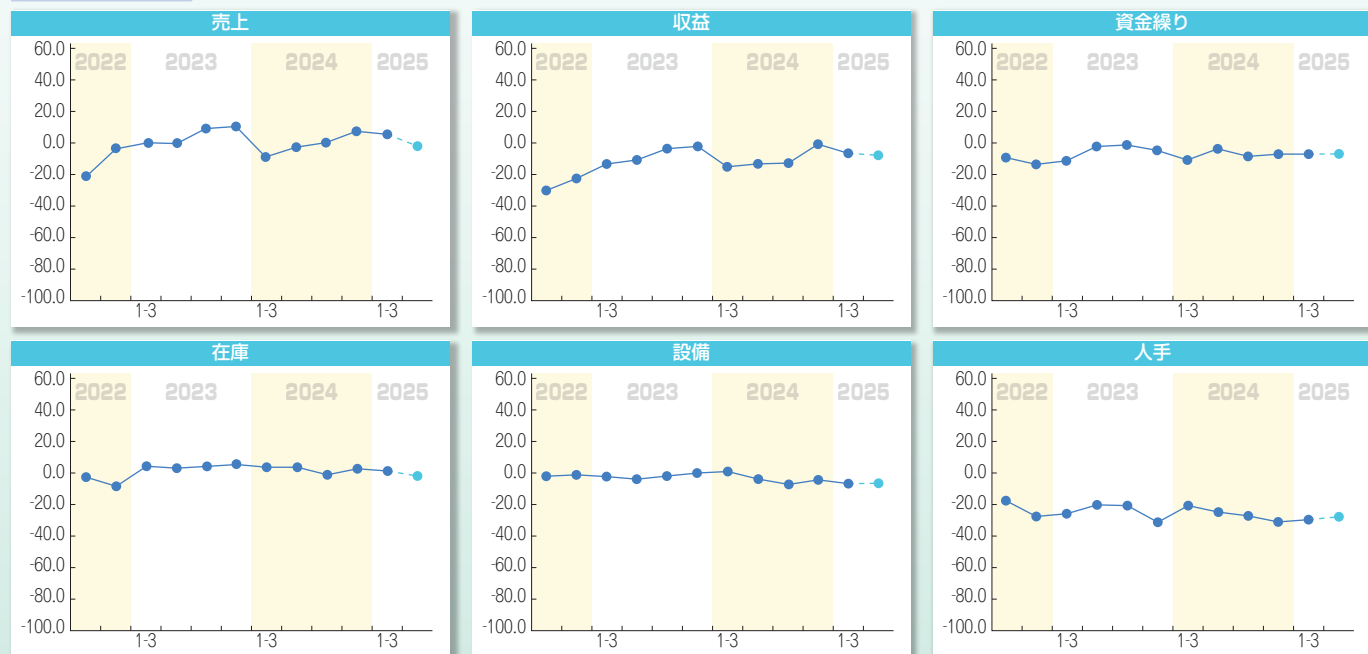
前期実績 今期実績 来期見通し

業況D・I  
の推移

## 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



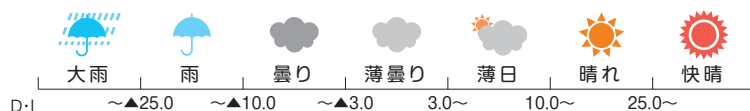
## へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査  
概要

実施時期 2025年3月3日～7日  
対象企業 318社  
対象地域 西三河および尾張南部を中心  
とした当金庫の営業エリア

## 天気図の見方



D-I(ディフュージョン・インデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)－(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。

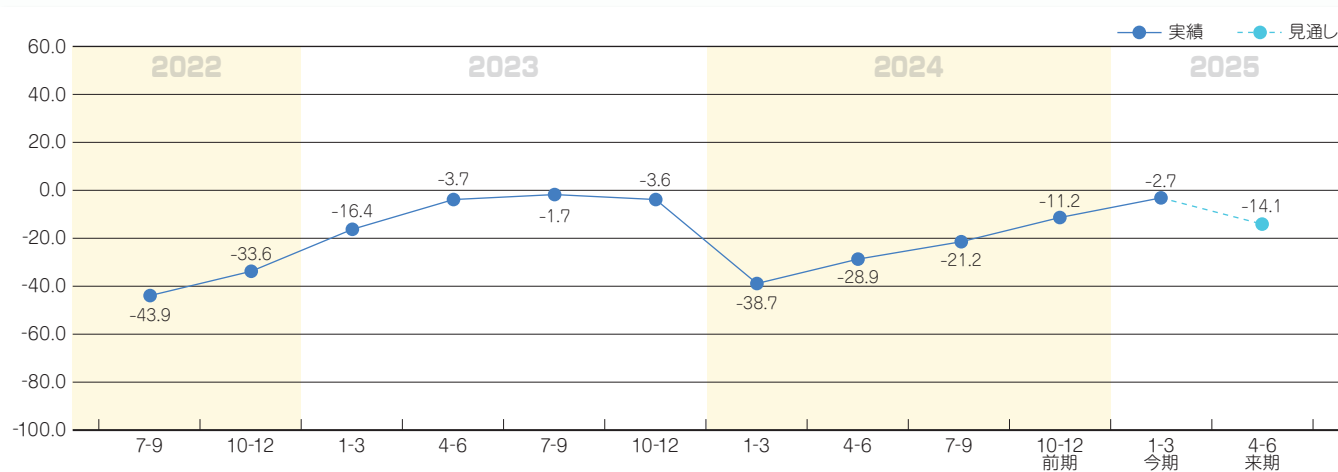
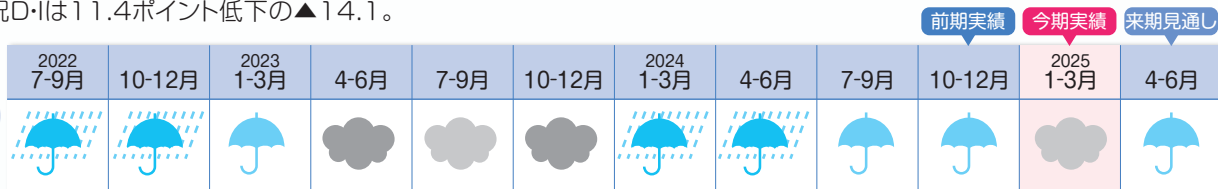


## 製造業

回答数113社

今期の業況D・Iは、前期比8.5ポイント上昇の▲2.7と、4期連続で改善。売上は改善傾向が続く。一方で、多くの企業がコスト高の影響を受けており、価格交渉、経費削減、業務効率化等、利益確保に向けた取組みを実施または検討しているとの声が多い。来期の予想業況D・Iは11.4ポイント低下の▲14.1。

業況D・Iの推移



### 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



- 原材料費や人件費等コスト増加により収益圧迫。取引先に対しての価格転嫁には時間を要している。  
新たに機械を導入することで、販路拡大、収益回復を図る計画。(自動車部品製造)
- 受注が不安定なこともあり、正社員での人材採用までは考えていない。(工作機械製造)
- 工場を一箇所に集約し、固定費の削減を実施。(機械器具部品製造)
- 市場金利上昇を見据え、先行して設備導入検討。(自動車部品製造)



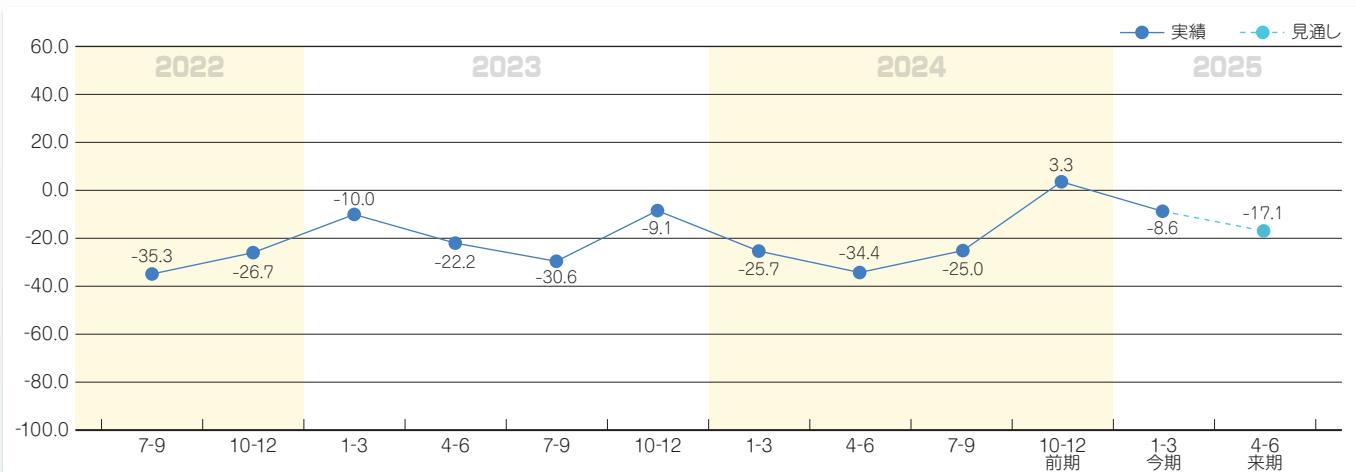
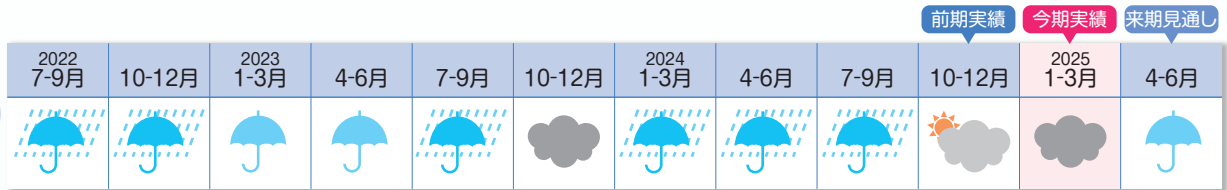


## 卸売業

回答数35社

今期の業況D・Iは、前期比11.9ポイント低下の▲8.6と、悪化。再びマイナス水準に転じた。価格転嫁が進んでいるとの声はあるものの、コスト高に追い付かず苦戦している企業も見られる。来期の予想業況D・Iは8.5ポイント低下の▲17.1と、さらに悪化の見通し。

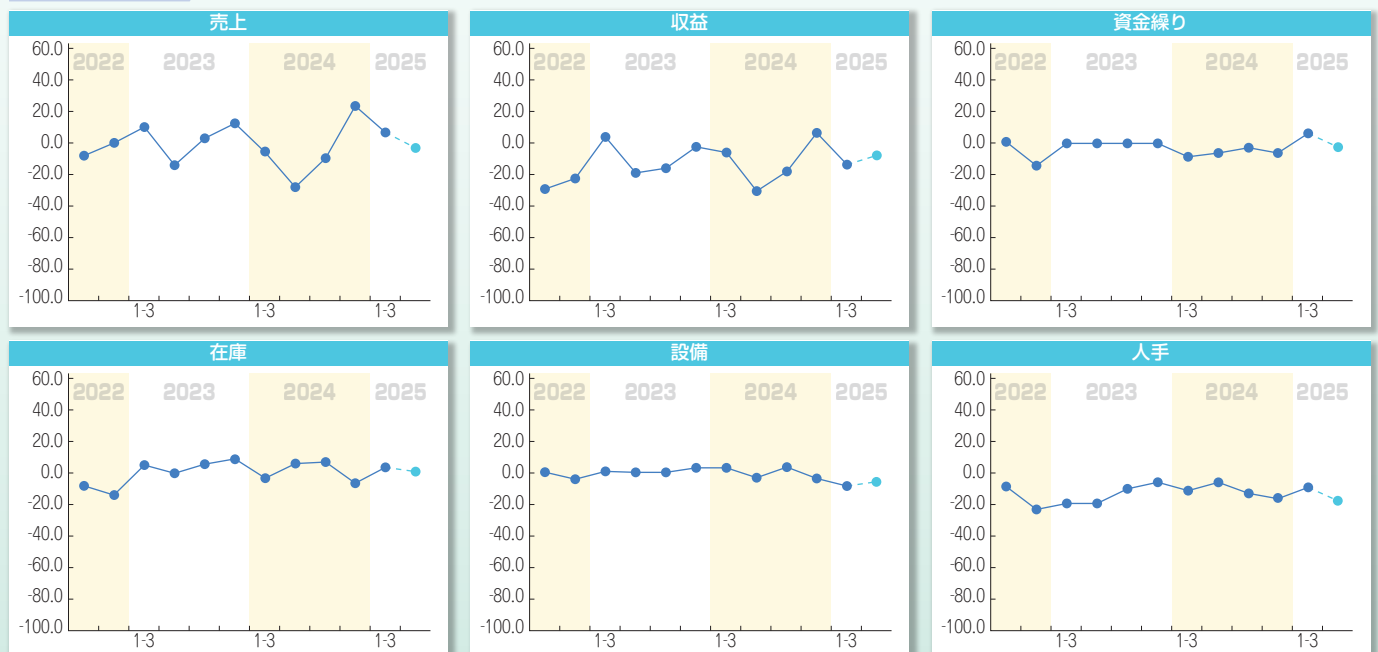
業況D・Iの推移



## 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 価格転嫁は以前より進んでいるが、仕入価格上昇が続いている。適正な価格で販売するため、採算の合わない取引先との取引をやめている。新規先の獲得が必要だが難しい。(繊維品卸売)
- 人手不足により売上、収益の増加が難しい状況。土地売却、M&Aなど検討中。(建築材料卸売)
- 人件費等ランニングコスト上昇の影響により、収益力は低下している。(鋼材卸売)



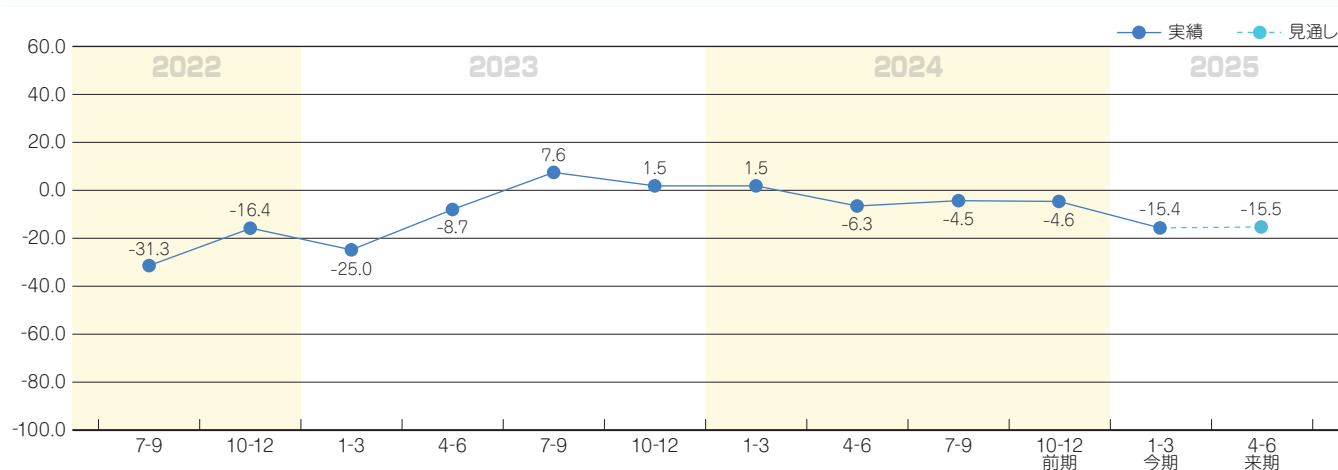
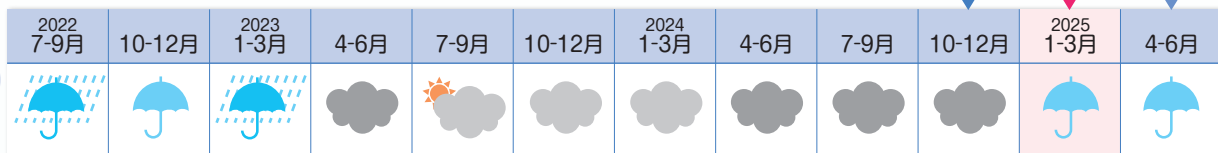
## 小売業

回答数65社

今期の業況D・Iは、前期比10.8ポイント低下の▲15.4と、悪化。物価高による買い控えやコスト高の影響により、売上、収益とも悪化した。来期の予想業況D・Iは0.1ポイント低下の▲15.5。新生活シーズンの売上増加が期待される一方で、さらなる値上げによる来店客減少を懸念する声が聞かれた。

前期実績 今期実績 来期見通し

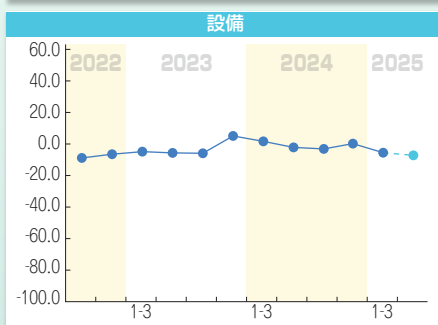
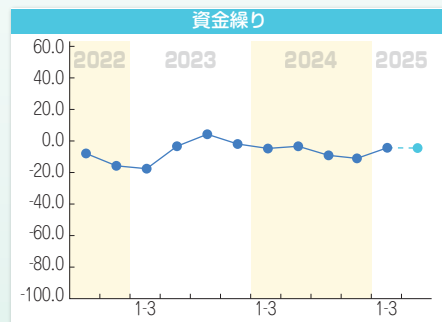
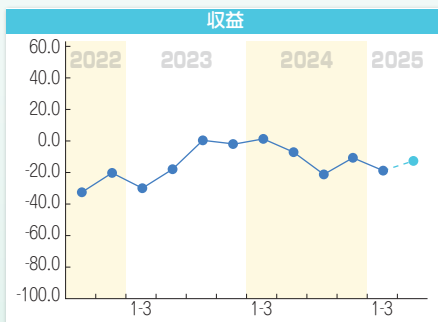
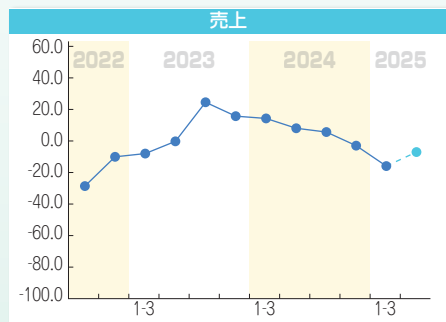
業況D・Iの推移



### 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- お米と卵の高騰が大打撃となっている。4月以降に値上げを予定しており、利益率向上を図る。(飲食店)
- 仕入価格が高騰しており、販売価格を引き上げたいが、競合も多くなかなか希望価格まで上げられていない。(米小売)
- 雪はあまり降らなくても、ニュースや天気の情報などに影響され、来店客数が減っている。(時計、宝石販売)



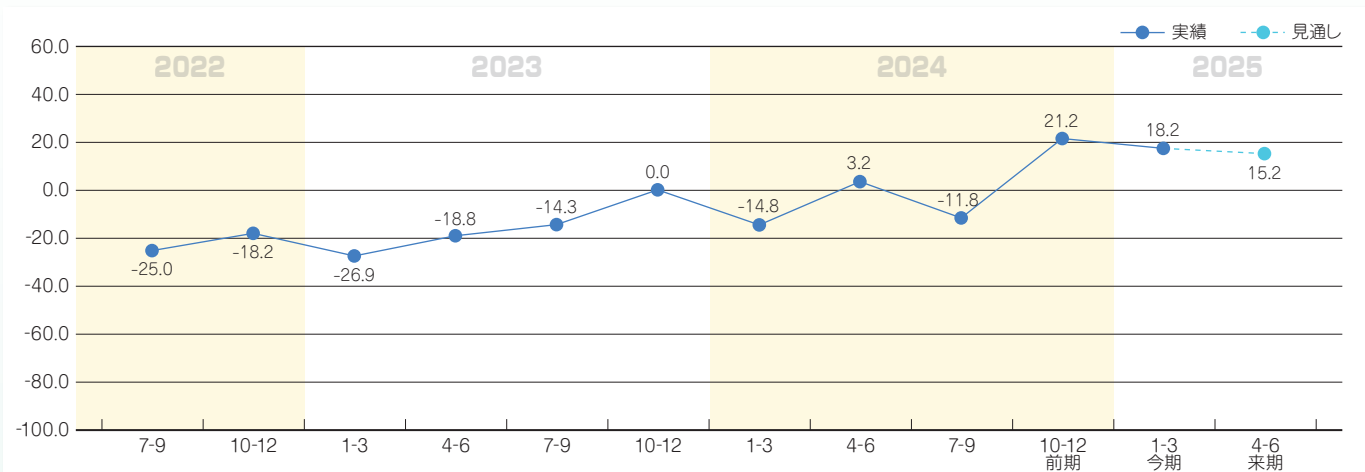
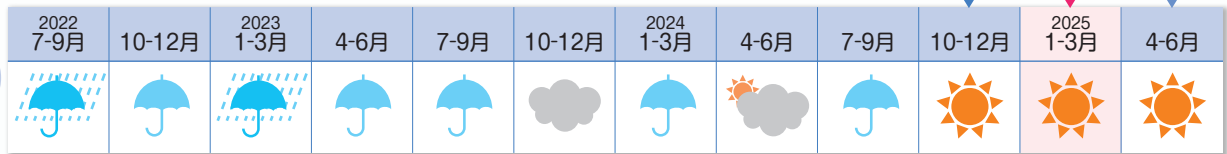
## サービス業

回答数33社

今期の業況D・Iは、前期比3.0ポイント低下の18.2。やや悪化したものの、高水準で推移。売上、収益は前期比ではマイナスとなったが、安定しているとの声も多い。人手はやや改善したが、依然として不足感が強い。来期の予想業況D・Iは3.0ポイント低下の15.2と、来期もやや悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

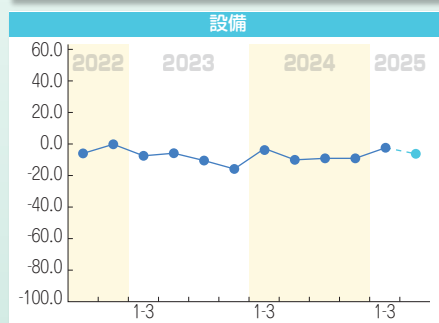
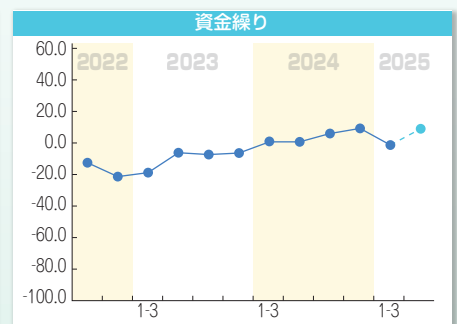
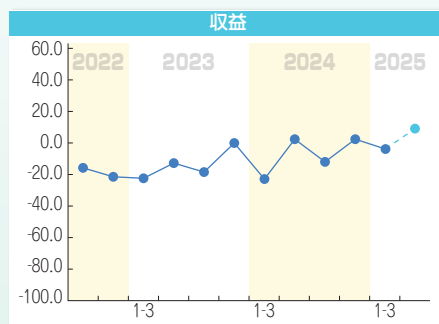
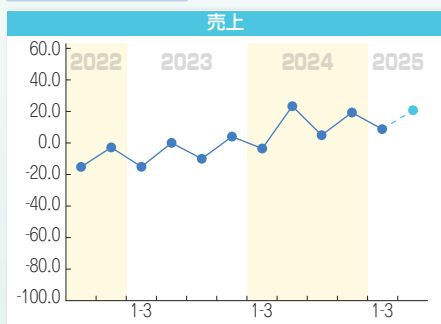
業況D・Iの推移



## 主要D・Iの推移

(注)設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 前期と比較して売上、収益に特に変化はなし。技術力強化、顧客増加により収益増加を目指す。(理美容業)
- 法人との安定した取引があり、安定的。(自動車整備)
- 慢性的に人材不足。自社の強みを効率よくアピールする広告、宣伝力が必要。(理美容業)

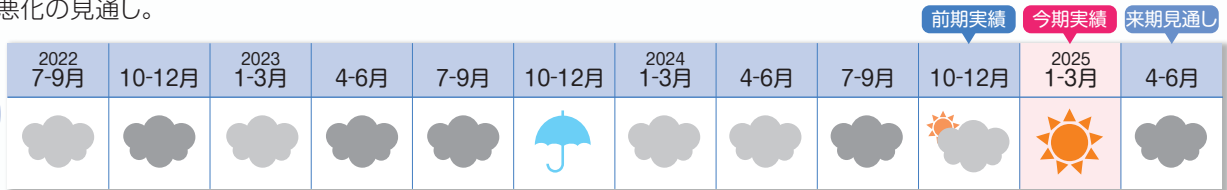


## 建設・不動産業

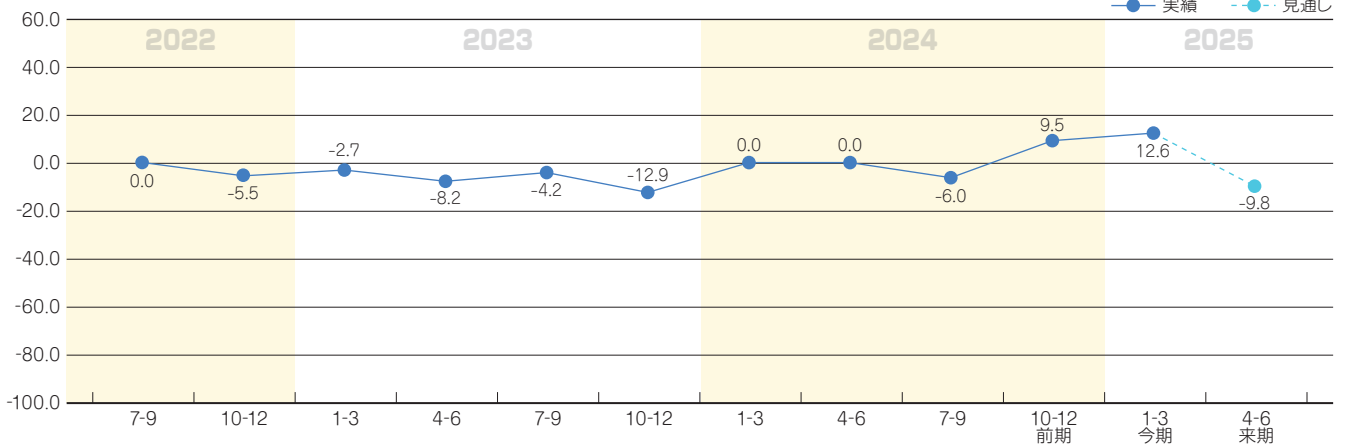
回答数71社

今期の業況D・Iは、前期比3.1ポイント上昇の12.6と、2期連続で改善。特に建設業は、受注が安定しているとの声が多く好調。一方、依然多くの企業が資材価格や人件費等のコスト高の影響を受けている。来期の予想業況D・Iは22.4ポイント低下の▲9.8と、大幅に悪化の見通し。

業況D・I  
の推移



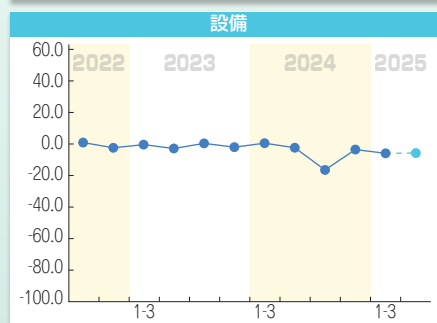
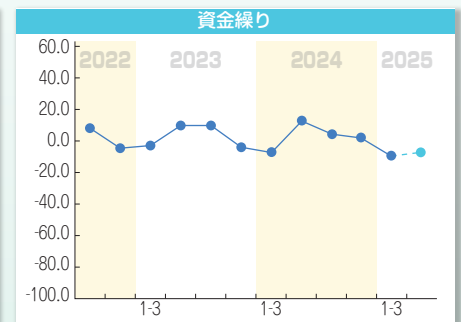
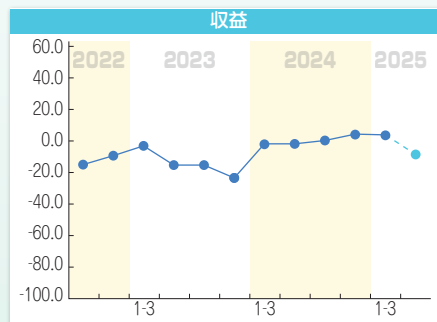
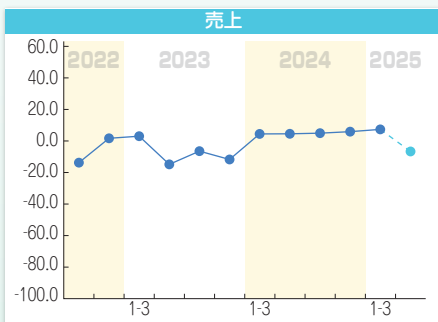
● 実績    ● 見通し



### 主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績    ● 見通し



- 持ち株会社を設立し、4月よりグループ全体の経営や資金繰りを一元管理。また、採算性の悪い会社を吸収合併し、体制のスリム化を図る。(土木工事)
- 売上高至上主義からの脱却を図り、1棟ごとの採算管理をより厳格に行うことで利益確保に努めている。(戸建て分譲)
- 販路拡大を目指しており、デジタルマーケティングにも力を入れていきたい。(不動産賃貸、仲介)